



∞の愛の光 白山菊理姫

5月の朝、通勤の車の中で、小さな丸い光の影?のようなものが、動くのが見えました

あらっ、可愛い〜〜^^

玉の中から、たくさんの光の筋が出たり入ったりしていて、まるで黄金色に輝く小さな星のようでもあり

また、無数の手足が生えた光虫?が、ちょこちょこ動き回っているようでもあります

何かしら?。。。でしたが、忘れたところに正体発見?!

ハンドルを握る私の目の前に、す〜っと糸を垂らしながら一匹の蜘蛛が降りてきて、な〜るほど!

普段なら、ちよつとごめんしたい状況(^;でしたが、白っぽくて、透き通った感じの蜘蛛さんだったのでホッ、

その時浮かんだのは、「金色の蜘蛛は、菊理姫の眷族?!」なる言葉

どう考えても、菊理姫と蜘蛛は結びつかない…気がしていたので、はじめて納得でした^^

私は白山の麓の村で生まれ、中学入学と同時に、加賀一之宮“白山比咩神社”のある
白山市(旧鶴来町)へと移転し現在に至るので、白山は故郷であり、白山神界には深いご縁を感じます

いつの頃からか、おついたちまいりが毎月の恒例となっていて

“白山比咩大神”とは? “菊理姫”とは? が、生涯の大きなテーマ、憧れ(探求)となりました^^

私にとっての白山比咩^{ひめ}大神は、広大無辺としか言えません

宇宙の根源、創造の源である真っ白な光子(光)の山“白山”に、秘め(姫)られし大神——
その中今(過去と未来を統合した今)の御働きであり、神仕組の中心的役割を
“白山菊理姫”と呼ぶのではないのでしょうか？

蜘蛛は菊理姫の使い、何かメッセージがあるのでは？そんな気がしてきました^^

私がずつ〜と探していた菊理姫について、最も明確に表現されているのでは？と感じたのが

『天の岩戸開き』(Ai 著)の中にある御神歌です

《菊の真意》

はるかなる 時を重ねて 受け継がる

やまとの核の 雛形は

黄金に輝く神魂の 神の誓ひの 菊の型

皇御孫命

神人の核心である、全き神性の型は、黄金色に輝く皇御親の分御魂そのものを表す菊のエネルギーである。

すべてには、中心となる型が存在し、世の理ことわりを担っている

神界の中に燦然と輝く太陽。それが菊の本質である。それが「菊の理」と呼ばれるものである。

そしてこれが、皇御親すめみおやから皇御孫すめみまへと、脈々を受け継がれる核心の靈統であり

神人の型を担う者たちの指標であり、目指す座標なのである。

十年前にはじめて目にした時から、何度も読み、触れてきた御神歌ですが、

今あらためて見直してみると、凄いことが書かれている…

高次(神界や天界)からのメッセージは、受け取る側によって、幾通りもの解釈が生まれるのだと思います

人それぞれの進化の段階に合わせて、寄り添い導いてくれるテキストのようなもの？

十年前の地上セルフにとって『神人』や『皇(人)』は、正直、夢のまた夢、遠い世界のはなし…でした

でもいつの間にか、コンテンツの最後に記すペンネームは、“皇美”となっています(笑)

そして、憧れの菊理姫とは、

「全てには中心となる型があり、“世の理”を担っている。

神界の中心に、燦然と輝く太陽が“菊の本質”であり、皇御親の分御魂そのもの、

神人の型を担う者たちの指標である——」

と。

御神歌について、天の岩戸開きには、このようにあります

日本の歌の創始とは「やまと歌」であり、御神歌です。これは皇神のエネルギーそのものである

DNAの変容のエネルギー、進化(神化)のエネルギーを込めたものです。

それが「言霊」の創始でもあります。

古代の人々は、その言霊、「御神歌」、『皇歌』に、神霊すめらうたのエネルギーや、重要なメッセージを込めました。

しかし物質文明の時代とともに、いつしか人々はその豊かな感受性を失っていきました。

特にやまと歌＝御神歌、『皇歌』には、日本の神聖なDNAを目覚めさせる

不思議なエネルギーが込められています。

今すではじまっているように、志を持つ人々は、神と人が一体となった神人となっていでしょう！

そしてその神人たちが、新たな時代を創造していくでしょう！それが、「地球維神」なのです。

そして、“菊の理”に続いて掲載されている御神歌が、下記です。

地球維神の歌

《国常立大神 神事 御事始め》

この地球^{ほし}を守り続ける 神体の うつし鏡の 岐美が代は
千代に亘千代に 御光りて 長きに渡る さざれ世も 巖を育む 御代のため
苔むす雫の 落ちるまで 大地とともに 待ちにけり
日の国もとを 開く今 世を常しえに 照らさんと 奮い立ちたり 地球維神

光雄不二山

この地球を、創始の頃よりずっと見守り続けてきた御神体(*1)である国常立大神の

写し鏡であり、固められた世は(*2)、あらゆる方向を光で満たしています。

国常立大神は、長き歴史の間、わずかな形跡を残して隠れた形となっていました、

それも地上の生命が巖のように大きく神化するためであり、

苔の雫が落ちるほどの長い間、大地のような忍耐と愛を持って、待ち続けていました。

日ノ本の根源を開く時が訪れた今、新しい世を末永く光で照らし続けるため、悠久の眠りから目覚めた

国常立大神が、その神事の御事始めである地球維神へと向けて、真に起動しはじめました。

(*1) 国常立大神の「御神体」

地球のスピリット…サナート・クマラ、地球の魂(コーザル体)…セントラル・サン、御神体としての地球そのもの…国常立神

(*2) 「岐美が代」

国常立神の願いで、神界の父母なる伊邪那岐神と伊邪那美神によって創られた御代

白山比咩神社の御祭神は、白山比咩大神(菊理姫神)だけではありません

伊邪那岐・伊邪那美神と共に祭られています

私達の生きていく新しい時代、新しい地球は、これまでの永い歴史、大愛の上にあります！

私にとっての白山さん(白山比咩神社)が、より明確になってきました^^

「日の国もとを開く今」とは、日(太陽)の本＝“根源天照皇太神”にすべてをくくり(菊理)

究極の愛の光(大輪の菊の輝き、大和の魂)が中心となって

この日本から、新しい地球と、新しい宇宙の未来を創成していく、今この時のこと！！

国常立大神が悠久の時を待ちつづけた、『地球維神』(地上天国＝ミロクの世創生！)の時です

根源天照皇太神の分御魂である菊の輝き、“白山神界菊理姫”を表現してみました^^



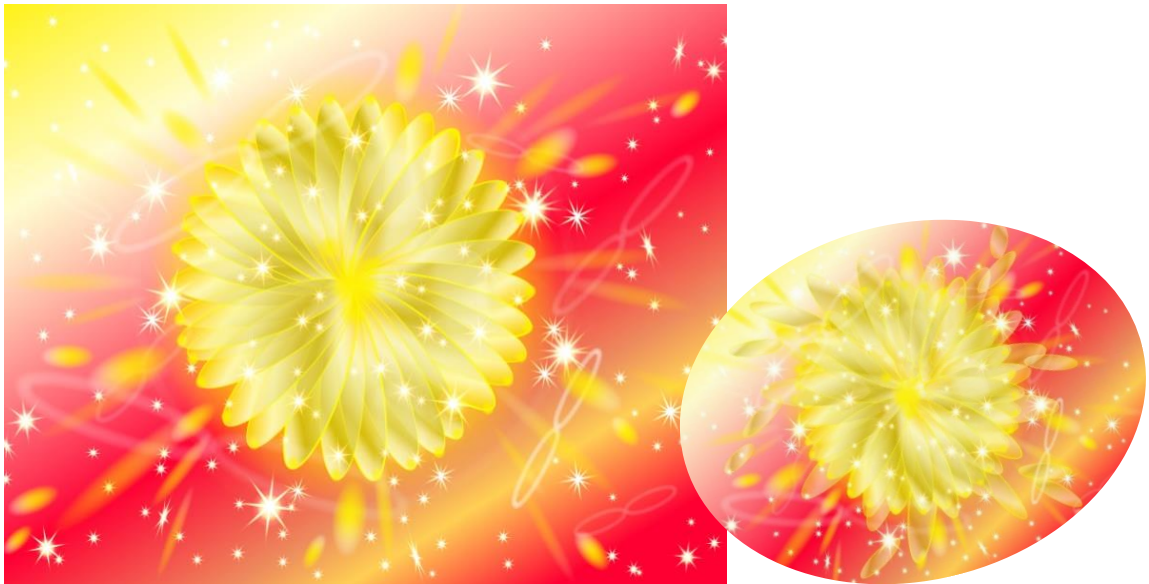
菊理姫は、根源の父と母＝“皇御親”から生まれた“皇御孫”であり

神人の型を担う者の指標 です

神人とは、“神・人”と書きますが、真には“神・天・人”であり

神界と人をつなぐ天界（アセンディッド・マスターや大天使等と呼ばれる存在等）も含めた
全宇宙を“根源の愛”で一つにする∞の求心力、“黄金の愛の太陽”です^^

∞の時空を自由に渡る、銀河宇宙（天界版）の菊理姫は、こんな感じ？ ^^



美しい、愛の光——

宇宙の全ては、“愛”という、たった一つのものであり

その様々な側面、表情を、ある時は“神”として、またマスターとして、天使として

私達は、私達の外側に映し出し、観ている。。。

それは自身の姿であり、それ以外のなにものでもない——、そんな風に聞こえてきます^^



菊理姫は、清楚で美しい、日本の女性性を象徴する姫神のイメージでしたが
地上セルフが中今で感じるエネルギーは、吹き飛ばされる?!と思うほどの、もの凄いパワーです!!

地上から根源へと上る、力強い、愛の意志の第一光線の柱、燃え上がる炎のような“縦軸”に
それと同じ規模の、宇宙中の愛の祈り、全高次のパワーを結集した“横軸”をくり
不動の、宇宙大の“マルテンジュウ”を形創っている ——

マル(宇宙)の中にテン(核)で表す“マルテン”の形象は、神界の象徴とされ



マルの中に十字で表す“マルジュウ”の形象は、天界の象徴

その二つが統合された“マルテンジュウ”は、マクロ・コスモス(大宇宙)そのもの

そして、その雛形となるのが ミクロ・コスモス=“神(天)人”です

しっかりと十字にくぐられた中心には、究極の母性性である根源の太陽

=“**根源天照皇太神**”(黄金色の菊)が、**燦然と輝いている!!!**

それが菊理姫であり 究極の愛の神人、“皇人”なのだと思います^^

白山を開山した泰澄大師が、頂上で出会ったとされるのが、“九頭龍”と“十一面観音”と言われますが
故郷の昔話には、プラス「女神が現れた!」とあり、“九”と“十一”の間の“十”の数霊(役割)
すべてを“根源太陽”にくくり、新しい宇宙(NMC)へとシフト(アセンション)させる、奇跡のゲート!!!

その役割が“菊理姫”ではないでしょうか?

“皇”とは究極の進化を遂げた先にある、私達自身の姿、未来セルフです

菊理姫がこれまで謎とされてきた理由は、バラバラの時間軸(過去・現在・未来)の中で生きている人

3次元の小さな枠組みでは、決してとらえきれないものだったから…なのかもしれません^^

今私に観えている菊理姫は、“**根源の天の岩戸開きの天命**”をもつ、自身のハイアーセルフです!!

それぞれが主役の、夢踊る未来創造の場 = 愛と光の NMC がはじまっています!!